

第一回 家村中佐の兵法講座

平成二十三年十二月十日

計篇 開戦に先立ち、①自国と敵国の状況を比較し、②いずれに勝算があるかを熟慮

一 兵とは国の大事なり(兵Ⅱ戦争)

死生の地、存亡の道、察せざるべからざるなり

五事(道・天・地・将・法)

将とは、智・信・仁・勇・嚴なり

※闘戦経 九七頁 呉子論将第四 理備・果・戒・約

七計(主・将・天地・法令・兵衆・士卒・賞罰)

【闘戦経】 第五章 用兵の本義(二八四頁)

兵の本は禍患を杜ぐにあり(兵Ⅱ軍事・軍隊)

戦争の抑止と対処

二 勢とは利に因りて權を制するなり

戦略と戦術と戦法

計(熟慮)と勢(機転)

計画段階(必然性)と実行段階(偶然性)

【闘戦経】 第四章 勢いで勝つか、力で勝つか(二五四頁)

三 兵とは詭道なり

能なるもこれに不能を示す

其の無備を攻め、其の不意に出ず

【闘戦経】 第八章 詭譎と真鋭(五二頁)

第五章 剛毅(四四頁)

第九章 正々堂々とよく戦う(五五頁)

第三章 戦場には仁義も常理もない(二四五頁)

四 算多きは勝ち、算少なきは勝たず

廟算Ⅱデータを集め、五事七計に従って比較・計算……一切の主観や願望を排除

「実行か、断念か」は攻勢側の理論

守勢側は実行あるのみ(断念⇨滅亡)

【闘戦経】第十三章 懼れと覚悟(六六頁)

第二十一章 蝮蛇の毒を生ず(九〇頁)

第三十章 蝱毒の一手(一一八頁)

第四十四章 寡兵をもつて大敵を討つ(二六〇頁)

作戰篇

内容的には作戰(オペレーション)ではなく、兵站(ロジスティクス)と会計(軍費)

一 兵は拙速なるを聞くも、未だ功久なるを睹ざるなり

其の戦いを用なうや久しければ則ち兵を鈍らせ鋭を挫く
用兵の害を知らざる者は、則ち尽く用兵の利をも知ること能わざるなり

【闘戦経】第十四章 最期まで意気盛んであれ(六九頁)

第二十八章 鋭気は人の根本(一一頁)

第四十七章 勝敗は神気の張弛による(一七〇頁)

二 智将は務めて敵に食む

善く兵を用うる者は、役は再びは籍せず、糧は三たびは載せず
策源⇨兵站線(後方連絡線)⇨前線

【闘戦経】第二十九章 食糧と戦備(二八頁)

三 敵の貨を取る者は利なり

鹵獲品

其の先ず得たる者

敵に勝ちて強を益す

四 兵は勝つことを貴び、久しきを貴ばず

決戦と持久戦

戦争の泥沼化(引くに引けない)

【闘戦経】第四十三章 速やかに敵の恃むところを討つ(二五七頁)